

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4390100552
法人名	社会福祉法人 白富会
事業所名	グループホーム ひまわり園
訪問調査日	平成 21 年 3 月 28 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 27 日
評価機関名	特定非営利活動法人あすなる福祉サービス評価機構

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日平成21年 4月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4390100552
法人名	社会福祉法人 白富会
事業所名	グループホーム ひまわり園
所在地	熊本市長嶺東3丁目3-70番地 (電 話) 096-388-8228

評価機関名	特定非営利活動法人あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成21年3月28日	評価確定日	平成21年4月27日

## 【情報提供票より】(21年2月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 9.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	新築
	2 階建て 2階	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	300,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	500 円	おやつ	昼食代に含む 円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要(3月12日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	3 名	要介護2	2 名			
要介護3	4 名	要介護4	名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	86.5 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	足立・有馬小児科神経内科 ほりた歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の中に開設した事業所は1階が小規模多機能居宅型事業所、2階がグループホームとして地域密着型として共に連携を図りながら基盤作りに取り組んでいる。法人理念である“愛 ときめき 楽しく”を事業所名「ひまわり」に込め、ケアハウスへの長年の関わりから、心身の状況の変化に応じ次の住処が必要な高齢者を地域の中での住み慣れた環境で支援していきたいとの思いから開設されている。この1年入居者一人ひとりを把握する期間であると観察力を強化し、常に寄り添いのケアに徹してきたことが、入居者の表情を引き出し、穏やかな日常を支援していることを確認した。次のステップとして家族会の設立に向けた取組が進行中であり、今後も地域の中での生活が深まり、明るく生き生きとした生活が送られることが大いに期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めてであり、自己・外部評価結果を全職員で検証したり、運営推進会議の中で意見交換を行い今後のホーム運営に活かしていただきたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己・外部評価の意義を明確に認識し、サービス向上に繋げる意向である。自己評価は管理者部門・介護・看護部門を手分けして行い、管理者が纏め上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、地域密着型サービス事業所として開設1ヵ月後より開催している。各事業所の活動状況報告が行われ、委員からはサービス運営に関する重要な意見や要望が多く、課題に向け全員で取組み次の運営推進会議で進捗状況を報告している。会議での意見や要望を職員会議で話し、ホーム運営に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(慣例事項:外部7, 8)
	家族の訪問時等健康状態や暮らしぶりや健康状態を説明し、毎月“ひまわり通信”の中に担当者が近況を記載し送付している。状態変化に随時の電話連絡にて家族の安心に繋げている。意見箱を設置したことを家族に説明しているが今までの活用は無い。家族会の立ち上げに向け家族からアンケートを行ったところであるが、運営推進会議では意見や要望等多数出ており、運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時に挨拶を交わしたり、小学校の運動会への招待等も受け交流を図り、ジュニアボランティアとの交流がきっかけとなり下校途中の小学生が訪問したりと住宅街にある立地条件を活用し交流に取り組んでいる。毎月職員は地域の集まり「一日会」へ参加し、自治会・社協・東保健センター・身障者施設・特養等の職員との交流を図っている。入居者と地域の住民との交流が今後益々深まることが期待される。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念、“愛(きめこまやかな愛情ときめき)ときめき(何時も前向きで明るく)楽しく(常にえがおで)”のもと、全員で考えた今年の職員理念を「スマイルライフ」に置き、“私たちは入居者の方の笑顔を思い、ともに喜びを感じる穏やかな生活の場を目指します”という独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内への掲示で職員への意識付けや利用者家族への啓発とし、全職員で考えた職員理念は浸透している。まだ開設して日も浅く、認知症ケア等の勉強をしながら、理念の実践に取り組んでいる。職員の心構えとして3原則もケア規範としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に挨拶を交わしたり、小学校の運動会への招待等も受け交流を図り、ジュニアボランティアとの交流がきっかけとなり下校途中の小学生が訪問したりと住宅街にある立地条件を活用し交流に取り組んでいる。毎月職員は地域の集まり「一日会」へ参加し、自治会・社協・東保健センター・身障者施設・特養等の職員との交流を図っている。入居者と地域の住民との交流が今後益々深まることが期待される。	○	この一年、地域との交流促進に取り組めれたことが推察され、ホーム行事に参加案内をし、相互交流を深め、ホームの啓発へとつなげていただきたい。

グループホーム ひまわり園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての評価である。自己・外部評価の意義を明確に認識し、サービス向上に繋げる意向である。自己評価は管理者部門・介護・看護部門を手分けして行い、管理者が纏め上げている。また、1年目の節目として、職員の意見を取り上げ質の向上を図るためアンケートを行っている。	○	自己・外部評価結果を全職員で検証したり、運営推進会議の中で意見交換を行い、今後のホーム運営に活かしていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、地域密着型サービス事業所として開設1ヵ月後より開催している。各事業所の活動状況報告が行われ、委員からはサービス運営に関する重要な意見や要望が多く、課題に向け全員で取組み次の運営推進会議で進捗状況を報告している。会議での意見や要望を職員会議で話し合い、救急法の訓練として消防署より協力を得てAEDの実技訓練を行ったり、職員の顔写真を玄関に設置し、家族会の設立に向け家族にアンケートを行うことが決定している。会議構成メンバーに地域住民や老人会等が今のところ入っていない。	○	構成メンバーとして地域からの参加があれば、地域密着型としての展開に活かされると思われる。地域の集まりへの参加もあり、参加メンバーも工夫しながら運営推進会議の場を更に充実させていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設時から市担当者との連携が図られ、様々の事項を相談している。市が開催する介護保険改正の説明会や認知症サポーター研修等に参加し、毎月熊本市介護相談員の訪問もあり、入居者との会話や観察の結果を提示してもらいサービス向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時等健康状態や暮らしぶりや健康状態を説明し、毎月“ひまわり通信”の中に担当者が近況を記載し送付している。状態変化に随時の電話連絡にて家族の安心に繋げている。金銭は管理規程に則り、委任状・依頼書を受入れ、管理簿に領収書を添付し、家族の来訪時サインによる確認としている。		

グループホーム ひまわり園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したことを家族に説明しているが今までの活用は無い。家族会の立ち上げに向け家族からアンケートを行ったところであるが、運営推進会議では意見や要望等多数出ており、運営に反映させている。	○	運営推進会議が問題定義の場として活用されている。進行中の家族会で定期的な状況説明等を行う意向であり、今後を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設1年目にあたり人事考課を行い、職員の力量に合う職場にしていくために法人内異動を行うことが決定している。管理者は離職防止に職員とのコミュニケーションに努めており、離職者は出ていない。顔馴染みでのケアの重要性を認識しており、異動は慎重に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設時にグループホームと小規模多機能居宅事業所が合体した施設に1ヶ月程の現場研修と内部研修を行っている。管理者研修・認知症フォローアップ研修・サポーター研修等外部研修に参加し、内部では教育委員が計画を立て研修を行っている。この1年基盤作りに職員の教育に力を注いでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県宅老所協会に加入し研修会に参加したり、他のグループホームの教育研修に開放したり、老健施設やケアマネジャー等見学時情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染むよう家族等と相談しながら工夫している	申込み時個人面談時情報の把握に努め、入居前の見学により雰囲気を感じてもらい安心した入居となるよう支援し、入居後は家族に面会を促し協力を得ながら徐々にホームでの生活に馴染むよう取組んでいる。又、1階の小規模多機能型事業所で待機されている方は生活環境の変化をなくすようグループホームに頻繁に遊びに上がられている。		

グループホーム ひまわり園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々一緒に過ごす中で、昔の習慣や思い出等を引き出し、お手伝いいただいたことに職員は感謝の言葉をかけ、入居者も労いの言葉をかけている。入居者の人生の過程を共感し、年長者として尊敬の念を持ってケアに当たっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで得た情報をもとに、本人に意向を聞いたり、日々の状況を把握し随時検討し本人本位になるよう支援している。家族との相談も欠かさず行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前の症状やADL等情報を把握し入居1週間程度は本人の状況把握に努め、初回の担当者会議に本人・家族・担当職員・管理者で立案したプランを話し合い、生き生きとして生活をしてもらうことを基本とした介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員のかかわりの充実やケアを統一するため担当制とし、定期的には6ヶ月毎の見直しとなっているが、心身の状態変化に随時カンファレンスを行い、現状に即したプランを作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					

グループホーム ひまわり園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別買物や個別散歩等柔軟に対応している。母体の大型車使用により夜間の外出等もあり、楽しみ事の支援をしている。看護職員による日々の健康管理により異状の早期発見を行い、治療を受けながらホームでの生活を継続させている。ボランティアの受入れやナイストライの受入れを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にそのままのかかりつけ医で良い事や協力医院があることを説明し、家族の希望により協力医院へ変更されている。毎月2回協力医院からの往診があり、他科受診には紹介状をもらい、看護職員が家族と同行し状態の共有化を図っている。協力医院と連携し、管理者と看護職員とのオンコール体制を取っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における指針のもと、家族に説明し同意書を受け入れ、家族・主治医と今後の対応について検討している。今のところ重度化や終末期の入居者はおられない。	○	ターミナルケアについての基本方針を作成しており、家族と繰り返しの話し合いやターミナルケアの勉強会を行い、今後に備えていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食堂に職員の心構えの3原則(叱らない 怒らない、せかせかと仕事をしない、忙しい時も笑顔でケアを)を掲示し、一人ひとりが理解を深めるよう意識付けにしている。トイレ誘導や入浴支援等プライバシーを損ねないように配慮し、明るく対応していることが確認できた。記録物はキッチンの中の棚で管理し情報漏えいには十分な配慮で当たっている。		
		○日々のその人らしい暮らし			

グループホーム ひまわり園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールを掲示しているが、本人の意思を尊重し、入居者のペースで一日を過ごすよう臨機応変に対応している。訪問日も居室での朝食や居室で過ごされる人、ホールに集い語らう人等様々であり、希望により支援していることが確認できた。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理へ積極的に参加される入居者や、男性入居者もテーブルを拭いたり、お茶を配ったりと出来ることを手伝われている。外食や行事食も計画して取り入れている。畑には野菜が植えられ、旬の食材の収穫や食事の提供もある。冷凍加工された食材と手作りの食材にて毎食提供されているが、料理を作る職員によって味の違いが無いように、隣接施設の栄養士により栄養指導や料実習を行い、美味しい料理提供に努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2日以上、1日に3名の入浴を支援しているが、個々の体調や希望により支援している。入浴拒否される入居者には時間をあけ声かけ、入浴チェック表により間隔が空かないよう配慮し、夏場はシャワー浴等も取り入れている。夜間の入浴も検討されている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の収穫やテーブル拭き、食器洗い等それぞれが役割を持ち、趣味の手芸や油絵・塗り絵、近くの病院で行われる陶芸教室への参加等継続して支援している。季節毎の行事やメイクアップボランティア等気晴らしとして楽しまれている。また、午前ハビリ体操による身体機能低下防止に取り組んでおり、ADL低下防止を考慮しながら自立した生活が継続できるよう支援する意向である。		
		○日常的な外出支援			



グループホーム ひまわり園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や阿蘇の外輪山が見渡せる環境のバルコニーは回廊になっており外気欲を楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠の弊害を認識し、1階のホーム専用の玄関には日中は開放している。日々職員は所在確認の徹底に努め、帰宅願望時には一緒にホーム内を散歩したり、個別のドライブを行なっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの訓練時には通報・避難・消火器の使い方を訓練し、自主防災訓練・非常呼集訓練・非常伝達訓練を各1回ずつ行っている。簡易スプリンクラー、煙探知機、緊急通報装置が完備し、緊急連絡網を作成している。施設内は禁煙となっており、夜勤者は火元確認と施錠確認の徹底に努め、まずは火を出さないように取り組んでいる。	○	住宅地に位置する事業所となっており、地域住民の協力を得られるように訓練日の周知を図り地域住民の安心へとつなげ、地域の方々の協力が得られるよう運営推進会議の中で協力を要請していただきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を観察し詳細な記録とし偏りが無いように支援し、隣接の栄養士からアドバイスをもらい給食担当者が献立を立てている。摂食・嚥下状態によりとろみ・2度炊き・お粥・きざみ等個別支援を行い、水分は定時以外にも適時補給を促し、1日1,000CC以上を目安に支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					

グループホーム ひまわり園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>近くの小学校からの歓声が入居者に活力を与え、2階のグループホームから運動場で遊ぶ小学生の姿が望める立地条件を生かしバルコニーやベランダで外気浴を楽しんでいる。1階のホーム独自の玄関内外は季節の花が彩り、食堂を中心にした生活空間は高い天井と抜きぬけの明るい環境であり、雛飾りや七夕等季節に応じ飾りや壁面を利用し季節感を醸し出すよう工夫している。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭生活の延長線上にある部屋として、自宅で使用していたものが持ち込まれ、転倒防止に畳の間に変更したりと家族の思いや職員の観察の結果が表出した居室となっている。</p>		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり園
(ユニット名)	ひまわり園
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市長嶺東3丁目3-70
記入者名 (管理者)	次山 雅巳
記入日	平成 21年 3月 12日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「スマイルライフ」を本年度の職員理念に掲げ、運営理念を基本に日々取り組んでいます。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全スタッフで理念を共有し、理念が実現出来る様、日々取り組んでいる最中です。認知症へに対応の仕方、認知症とはからスタッフ間での勉強会を行い、入居者への理解を深め「スマイルライフ」の実現に努めています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設のよく見える場所に掲げ、ご家族等にアピールしています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な付き合いが出来る様に努めています。小学生が時々遊びに来てくれます。又、パン屋さんは週1回は来てくれます。	○ もっと、地域の皆さんとの交流も広げ、当施設の行事などにも参加して頂ける様働きかける。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月に1度の託麻・長嶺校区の集まり「一日会」への参加をし、自治会の方々や、事業所との交流をしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、まだ実施していません。	○	自治会などでの介護教室や相談等を開いて行きたい。又、当施設の大きな行事にも参加して頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現在、まだ実施していません。	○	今回は、初回なのでその結果を今後につなげたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており、そこで出た意見への対応をし、次回の会議の時に前回の課題への対応儒教を報告している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困った時に頼っているのが現状です。	○	今後も市町村との連携は今後も取っていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、まだしていない。	○	認知症のケアをしている以上必要となってくると思うので、今後、勉強し、必要時対応出来る様にしておきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、まだしていない。	○	是非、取り組んで行きたい。今後につなげたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと説明するように心がけています。又、内容に納得した上でサイン(印)を求めています。又、その都度質問に答え、納得して頂いた上で契約をしています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者は設置しています。	○ 運営推進会議を活用し、外部からの意見を受ける様にはしているが、今後、外部の評価委員を決めて行くことも検討していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	不定期ではあるが、行っている。	○ 今後、家族会等の設立を進め、家族等への定期的な状況説明等が行える場をつくっていく様努めていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置しており、内容に回答を行い掲示をする様に行っている。	○ 運営推進会議や今後予定の家族会、外部の評価委員からのアドバイスを活用していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議を開催しており、その場での意見交換や検討会を行っています。又、企画行事に関し、各職員からの意見を集め、企画書作成を行っています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務希望を作成するにあたり、職員の希望を反映しながら勤務表を作成しています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各職員同士で情報交換や対応をしながら、担当職員との関係が構築出来る様対応している。	○ 職員の移動は慎重に行っている。顔なじみの関係を大事にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	施設内でもテーマを決め、勉強会を行っている。又、外部への研修には、積極的に参加を促している。	○ これからも、よい意見を業務に反映して行きたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	研修会等に参加し、他事業所との情報交換を行っています。	○ これからも、色んな研修に参加し、意見交換等を行って行きたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	いつもと様子が違う職員には、その都度声かけを行っている。又、BGMでも、昔の唄だけではなく、時には最近の唄も流したりと工夫しています。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	スキルアップを目指す様話しています。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	利用者本位で関わっていくことに努めているが、家族の意向が中心になりがちな場合もあります。	○ 今後も利用者本位に努め、関わって行こうと思います。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入所前には、本人、家族との面談を行い意向や相談等を伺っています。	○ 今後も家族の思いや悩みには、出来るだけ対応して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。相談の際に、グループホーム以外のサービスを必要としている方には、そちらのサービスを勧めたりしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に施設見学をして頂いたり、入居後しばらくは面会の回数を増やして頂くようにしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理を教わったり、昔の風習や思い出話を聞いたりしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者には、一人ひとりの担当職員がついており、日々の生活面等での相談や必要時家族との連絡を取り合い、ご本人の意向を伝えたりしている。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族とのコミュニケーションを大切にし、月に1回、生活の様子を手紙にして家族へ伝えている。	○	これからも努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		○	本人が街等に出たいとおっしゃる時は、対応して行きたいと考えています。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	努めています。利用者同士の会話の時や、利用者同士が助け合っている時は、見守っています。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院をされた時や、入院で退所された際も面会に行っています。	○	これからも大切にして行きたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めています。本人にどう過ごしたいか聞きながら行っています。ケアプラン作成時も本人の意向を聞いています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	深くは聞いていません。	○	今後、家族にも情報をもらって行きます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	努めています。カンファレンスを活用し、職員同士での検討もしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、意見を取り入れ生き生きとした生活をして頂けるよう努めています。	○	半年に1回程度で定期的に家族との話し合いをして行きます。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必要時、カンファレンスを行い、対応の見直しを行いながらより良い生活を行って頂けるよう努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のカルテに記録している。又、カンファレンスを行い、情報の共有にも努めています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	支援しています。急な受診や外出等にも対応しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	充分には支援出来ていません。運営推進会議での意見交換のみです。	○	各機関と連携しながら、地域で支援していきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	支援していない。	○	必要に応じて対応していきます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	していません。	○	必要に応じて対応していきます。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診を受けています。又、状態悪化時はその都度受診をしたり、主治医へ手紙にて情報提供をしながら連携を図っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	連携医療機関に相談、助言を受けながら行っています。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	支援できている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は面会を行い、経過を観察し退院に向けて、担当Nsから情報収集を行っています。	○	退院後にとまどいがない様、環境にも注意をはらい、医療機関との連絡を密に対応して行きたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医との情報交換を行い、家族への状況説明を行うと共に、主治医を含めて家族との今後の対応を検討して行きました。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	実施していない。	○	今後必要時対応して行こうと思います。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	努めています。情報提供を行い、本人が混乱されない様に配慮しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレ、入浴などの誘導時の声かけは、他の入居者に聞こえない様に、本人に理解させて誘導しています。又、丁寧な言葉かけにも注意しています。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>飲み物は利用者の希望をきいたり選べれる様に努めています。又、好きなものを選択出来る様に色々な場面で希望を現わされる様に努めています。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>行動を起こされる時は、まず、ご本人の意思を尊重できる様に努めています。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>カットボランティアの受け入れや、月に1度、出張理容を行っている。本人の希望に応じて美容室にも行っています。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>支度や洗い物など、積極的に手伝って頂く方には、習慣的に手伝って頂いています。また、行事食など、定期的に計画し、入居者の方とスタッフと一緒に楽しんでいます。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物など、本人の希望を聞いています。</p>	<p>○ 一人ひとりの身体状況に合わせて対応して行きたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録表を使い、多少の失敗にもこだわらず、ご本人の羞恥心や不快感を取り除き、一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに合わせて誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は固定されつつありますが、ご本人の希望を聞き対応しています。	○	今後、夜間の入浴なども取り入れて行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない時は、本人が眠くなるまでリビングでテレビを見たり、職員と話しながらお茶を飲んだりとゆっくりと過ごして頂いています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご飯の盛り付け、畑の野菜の収穫など、利用者にあった支援をしている。	○	ADL低下防止も考慮しながら、出来る限り自立した生活が継続出来る様支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は個人では困難であるため、預かり金にて管理しているが、本人と買い物に行く場合は、本人に支払をして頂いています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩コースがあり、その日によってコースを決めています。又、施設の畑を見に出たりもしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに外出する機会をつくっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、家族に電話が出来る様対応しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間の時間以外は制限はなく、自由来園できます。来園された家族へは、お茶を出してゆっくり過ごして頂いています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取組を心がけていますが、安全を確保するためにやむを得ず対応しなければならない場合は、家族と協議し、同意の元で行う様にしています。	○	身体拘束に廃止には努めて行きたいと思います。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関には鍵をかけてはけません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員一人ひとりが常に入居者個々の所在の把握に努め、本人のプライバシーにも配慮した対応を行っています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご家族と相談しながら行っています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的なカンファレンスやヒヤリハットに取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急隊をむかえての講義を受けたり、職員間での勉強会を行っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会で訓練や、自主的な訓練を実施しています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	不定期ではあるが、家族の面会等でリスクのある対象者がいる場合は説明したり、電話連絡にて相談したりしています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を行い、異常の早期発見に努めています。また、様子がおかしい場合は、その都度看護師に相談しています。	○	これからも、健康面の観察には努め、健康な生活が維持出来る様努めて行きたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の服薬リストをファイルしており、目的や副作用について理解する様にしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、ラジオ体操を行い、体を動かしたり食事のメニュー等を工夫しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを行っています。又、みがき残しがある場合は介助をしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量の把握を行っています。又、体重の増減からの食事摂取状態の把握にも努めています。水分に関しては、定期以外に追加飲水を促し対応しています。	○	利用者個々の嗜好を細かく把握し、一人ひとりの状態に応じた食事形態での対応が出来る様に努めて行きたいと思えます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、職員間での勉強会でも取り入れ、対応出来る様に努めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	努めています。台所の掃除、調理開始前の手洗い、期限切れの食材は使用しないなどの対応と、まな板や布巾は定期的に漂白と消毒をおこなっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路に面して広い駐車場を設けています。又、バリアフリーであり、玄関はエレベーターを設置しており、車いすの方でも気軽に入れます。玄関前は屋根があり、雨の日でも濡れることなく車への乗降ができます。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は天井が高く、開放感があります。南向きに面しており、日当たりはいいです。又、近くに小学校があり、窓を開けると、子供達の声が聞こえる時もあります。施設の前には、畑もあり、好きな方は菜園での活動も出来ます。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にもソファを設置しており、気分によって好きな場所が利用できる様にしています。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力をお願いし、ご本人がご自宅で使っていた物等を持参して頂き、各々の工夫された落ち着いた部屋づくりに努めています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	実施しています。気になる臭いに関しては、すぐに窓を開け換気をしています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、各通路やトイレ、浴室に手すりを設置しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立への補助的支援を行いながら、残存機能がいかせる様な対応に努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダとホールが回廊式のあり、屋外の散歩以外にも散歩が出来る様になっています。又、ベランダにもベンチを設置しており、ゆっくりくつろげる様にしています。	○	今後も入居者一人ひとりのふれあいを大切に行きたい。

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成20年4月にオープンし、明るく広いスペースで落ち着いた生活が出来ます。ホームの近くに小学校もあり、登下校時や運動場での活動時に児童の声が聞こえ、元気な声に入居者の笑顔もほころびます。毎月、入居者お一人々のホームでの生活を「ひまわり通信」にてご家族へ安心をお伝えしています。家庭菜園もあり、好きな方は楽しむことが出来、収穫のときにはみんなで喜びあって季節の食べ物を食しあっています。職員の元気も大切にしながら、入居者お一人々に楽しく目標のある生活が継続出来つように努め、笑顔でゆとりのあるケアを目指しています。